

地域の医療機関、介護事業所、中小企業、行政と顔見知り関係を築くことを心がけよ



株式会社メデイサイト代表取締役
松村真吾氏

PART1、2を通じて院外に飛び出す重要性を説明してきたが、そうした活動を通じて地域住民の健康管理を総合的に担っていく「ヘルスケアリーダー」役を務めるためには、何が重要になるのか。ここでは、医療経営コンサルタント兼診療所の事務長として現場を熟知している株式会社メデイサイト代表取締役の松村真吾氏に、「ヘルスケアリーダー」が心得ておくべき要件について語っていただいた。

地位や職種を超えた関係を築ける特徴を活かす

医療費抑制政策や健康に関する国民の意識高揚などで、「予防」を含めた健康管理が重視されるようになり、医師は今まで治療だけを行っていたればよかつたわけですが、「病気になる前」の健康管理までも期待されています。

医療機器・設備が充実していることや標榜科目が多いことから、住民の多様なニーズに対応できる病院が地域医療の中心的存在といえます。今後もその構図は変わらないと思いますが、地域の医療・福祉・保健分野をつなぐ「ヘルスケアリーダー」にふ

さわしいのは開業医と考えます。

長いスパンで地域住民の健康管理を行うには、患者の心身の状態の変動を継続的に把握したり、多職種との連携などによるきめ細やかなケアが必要です。たとえば介護分野では、「足早く「介護予防」が制度化されると同時に、地域における介護を包括的に支援する「地域包括支援センター」が概ね中学校区に1カ所の単位で設けられました。

診療所は、それ以上の割合で地域に点在しています。病院に比べて小回りがきく診療所は地位や職業を問わず、地域住民と顔見知りになる関係を築くことが可能です。長期間にわたる人付き合いにおいては、お互いが

顔見知りであることが必要不可欠。それができるからこそ開業医が「ヘルスケアリーダー」にふさわしいわけですし、そうなることを今後は求められてくると思われる。

ピラミッド型より並列型 協働関係を意識する

次に、院外に飛び出すことを前提として、これからヘルスケアリーダーを目指す医師が心得ておくべき7カ条を挙げます。

その1 地域の有名人たれ!

地域住民の健康を総合的に管理するには、支援するチームはもちろんのこと、サービスを提供する対象の

住民のなかでも中心にならなければなりません。そのためには、地域で有名人とすることが大切です。「地域の盟主といわれる人と懇意にする」「商店街のイベントに積極的に参加する」といった努力が必要になります。かつて当社が経営支援をする診療所の院長が、地域のお祭りで「焼きそば」を出したところ、地域住民から親しまれるようになり、新患が増えたというケースもありました。

その2 患者とのコミュニケーションを充実させよ!

患者とのコミュニケーションの重要性が叫ばれて久しいので、そう認識している医師も多いことでしょう。ただ、

その4 介護職との円滑な連携に努めよ

「内科の患者の2〜3割は心の病も抱えている」という指摘もあり、疾患の原因が複雑化している傾向にあります。単なる医学的な知識の提供ではなく、会社や家庭など患者・住民の生活背景までを考慮したアドバイスが必要です。コミュニケーションを充実させて1つでも多くの情報を得られるように心がけましょう。

医療・福祉分野において、「施設から在宅へ」という流れは周知の事実。訪問看護ステーションなどの医療事業者との連携だけでなく、訪問介護や居宅介護支援などの介護事業者との連携も欠かせません。ただ、お互いに業務が多忙なため、電話やファクスで連絡をすませてしまうことも少なくないはず。介護職は医師に対して遠慮しがちなので、カンファレンスには、医師のほうから積極的に参加することを心がけましょう。

その3 地域の医療機関と積極的に交流せよ

総合的に健康管理を行うには当然、ほかの医療機関との連携が不可欠です。そこで重要になるのが「顔を見せる」こと。同じ地域の病院の「地域医療連携室」や「医局」、診療所と積極的に交流しましょう。電話や紹介状のやり取りなど、顔が見えない関係よりも信頼度がアップします。

その5 ピラミッド型よりも円の中心のイメージ

ヘルスケアリーダーといっても、医師を「頂点にしたピラミッド型で

はなく、対等な立場のなかでの「中心」となることを意識すべき。お互いを尊重し合いながら、「コーディネートする」という意識で地域住民を支援していくことが大切です。

その6 地域の中小企業の存在を忘れるな

医師は仕事となると、医療・福祉関連の職種や施設・事業所に目を向けがちですが、民間企業にもっと目を注ぐべきだと思います。「予防」を含めた健康づくりが求められている現在、たとえばフィットネスクラブを運営している企業は活用すべき資源の1つとなり得ます。

一方、予防接種や健診については組織単位で受注することがあり、集患面での効果も考えられます。たとえ小規模であっても地元の中小企業や

その7 行政との信頼関係を築け

特定健診・保健指導事業では保健師などとの連携が不可欠です。そのため、日ごろから役所との信頼関係を構築しておくことが重要になるでしょう。前述したように、これから患者の生活背景までも視野に入れて活動しなければなりません。家庭環境などに問題を見つければ、NPOなどの活用も考えられますが、役所にも相談すべきです。

多くの開業医は、開業時とたまの監査の時ぐらいいしか行政との付き合いがありません。ふだんからコミュニケーションを図っておくことをおすすめします。

特集1

特定健診・保健指導を機に院外へ飛び出そう
開業医よ、地域のヘルスケアリーダーとなれ!



川崎市多摩区で開業医をお考えの方へ
「開業医」の
「開業医」の
「開業医」の
「開業医」の

入居 募集
医療機関
平成21年3月オープン予定
見学は随時可
〒226-8501

心療内科・形成外科・
レディースクリニック・
内科（専門特化）

物件名：www.田口ビル
所在地：川崎市多摩区第一丁122-240番1.2
交通：JR有明駅「田口ビル」駅前
車：川崎駅西口から徒歩7分（774.31m）
入居予定：平成21年3月
お問い合わせ先：田口ビル管理事務所
電話：田口ビル管理事務所

概要条件
面積：1階 約570㎡ (15.42坪) / 2階 約570㎡ (15.42坪)
賃料：10,000円 (税込) / 2階 10,000円 (税込)
管理費：1,200円 (税込) / 2階 1,200円 (税込) / 月
更新期：1年 1,100円 (税込) / 月
物件：スケルトン製レジャービル
その他：眺望良し

お問い合わせ先
〒226-8501 川崎市多摩区第一丁122-240番1.2
田口ビル管理事務所
TEL: 044-251-2501 FAX: 044-251-1006